
二級河川 大津川水系の事業評価について

◎ 今回の事業評価について

1. 事業概要
2. 事業の必要性に関する視点
3. 事業進捗の見込みの視点
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点
5. 特記事項
6. 対応方針(原案)

今回の事業評価について

- 大阪府では、建設事業の効率性及び実施過程の透明性の一層の向上を図るため、建設事業評価を実施している。
- 河川事業・ダム事業については、大阪府河川整備審議会で事業評価を実施している。
(「大阪府河川事業・ダム事業の事業評価(平成28年7月 大阪府都市整備部河川室)」)
- 大津川水系の事業については、H25年度に「大津川水系河川整備計画(変更)」の審議をもって事業再評価としており、再評価後5年を経過するため、H30年度に事業評価を実施するもの。

《事業評価について》

	再評価(再々評価)
目的	事業継続の妥当性を判断するとともに、より効率的な実施方法等を検討する。
対象	総事業費10億円以上の事業
評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の大幅な変更……………① ・事業採択後5年未着工、事業採択後10年継続 ・再評価後5年継続毎(事業未着工のものは除く) ・総事業費の大幅な変更 ・その他評価の必要が生じた事業
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・事業状況(事業計画等の変更及び今後の進捗見通しを含む) ・事業を巡る社会経済情勢の変化 ・費用便益分析等の効率性 ・安全・安心、活力、快適性等の有効性 ・自然環境への影響と対策
審議方法	<p>①の場合は、河川整備計画(案・変更案)の審議・了承</p> <p>②の場合は、再評価(再々評価)調査により審議</p>

※「大阪府河川事業・ダム事業の事業評価(平成28年7月 大阪府整備部河川室)」より抜粋

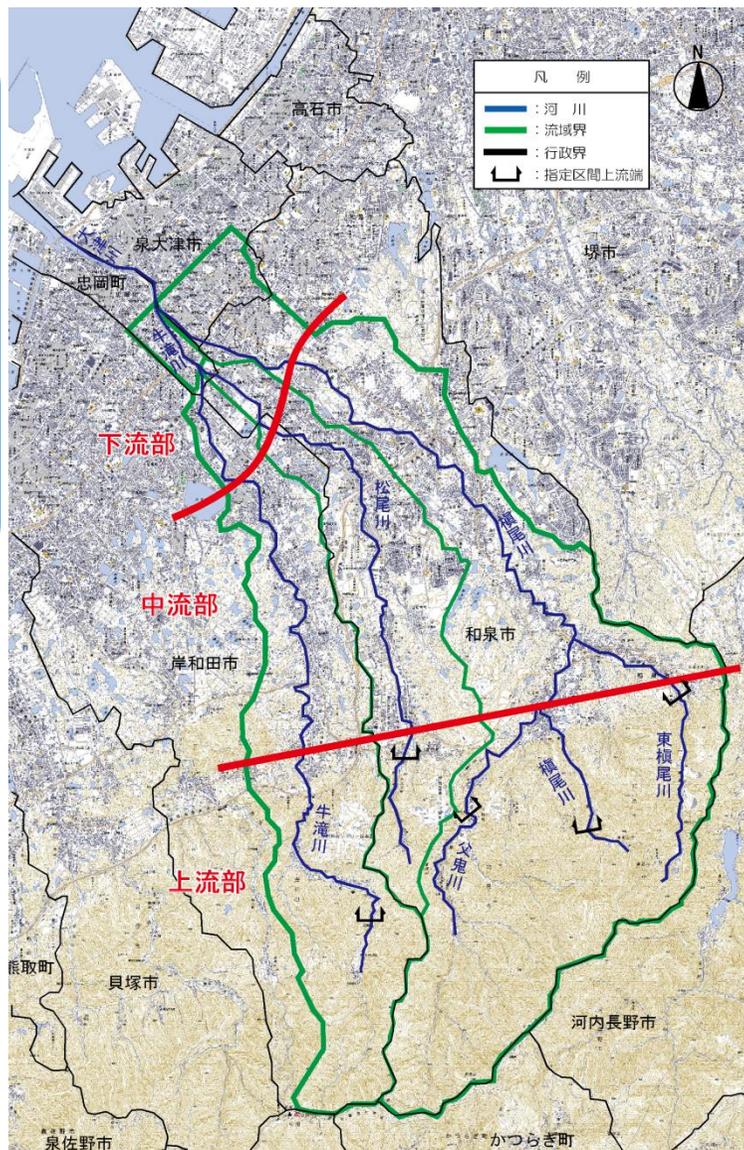
1. 事業概要

流域の概要

- 流域市町：和泉市・岸和田市・泉大津市・忠岡町
- 指定区間延長56.6km
- 流域面積 102.2km² (府域最大二級水系)
- 流域の人口：約48万人 (H27国勢調査に基づく)
- 下流部→市街地/中流部→丘陵地開発/上流部→自然豊か(金剛生駒紀泉国定公園に指定など)

河川延長一覧表

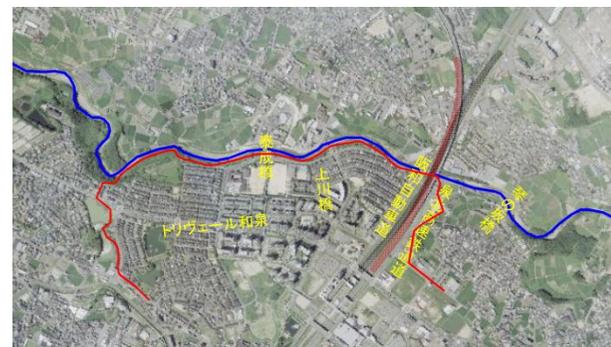
河川名	指定区間延長 (km)	流域面積 (km ²)
大津川	2.6	102.2
榎尾川	18.3	56.7
父鬼川	3.2	19.7
東榎尾川	2.6	10.6
牛滝川	17.5	45.4
松尾川	12.3	18.0
計	56.6	102.2



大津川流域



大津川下流部の状況



榎尾川中流部の状況



過去の水害

■昭和27年7月豪雨による被害状況：堺市、岸和田市を中心に発生し、大阪市、堺市など7市2郡に災害救助法が適用された。大阪府下で死者41名、浸水192,238戸に及んだ。



泉大津市役所玄関（泉大津市）



南海泉大津駅構内（泉大津市）

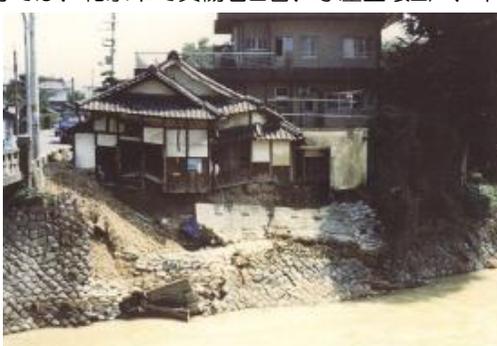


南海桶並橋上流（泉大津市）

■昭和57年8月台風10号豪雨による被害状況：大津川水系の関係市町では、和泉市で負傷者2名、家屋全壊2戸、半壊2戸、一部損壊11戸床上浸水168戸、床下浸水5,526戸に及んだ。



槇尾川泰成橋下流（和泉市池田下町）



槇尾川川中橋下流（和泉市三林町）



槇尾川神田橋上流（和泉市下宮町）



槇尾川地藏橋（和泉市坪井町）



松尾川高橋下流（和泉市内田町）



牛滝川（岸和田市稲葉町）

過去の水害

■平成7年7月豪雨による被害状況：大津川水系の関係市町では、床上浸水11戸、床下浸水60戸に及んだ。



横尾川国府河頭井堰付近（和泉市坂本町）



横尾川地藏橋付近（和泉市坪井町）



牛滝川（岸和田市横川町）

■平成23年9月台風12号による被害状況：大津川水系の関係市町村では、浸水被害はなかったが、松尾川で河川被害（護岸欠損）が発生。



松尾川（箕形橋～唐国橋）



松尾川（冬堂橋下流右岸）

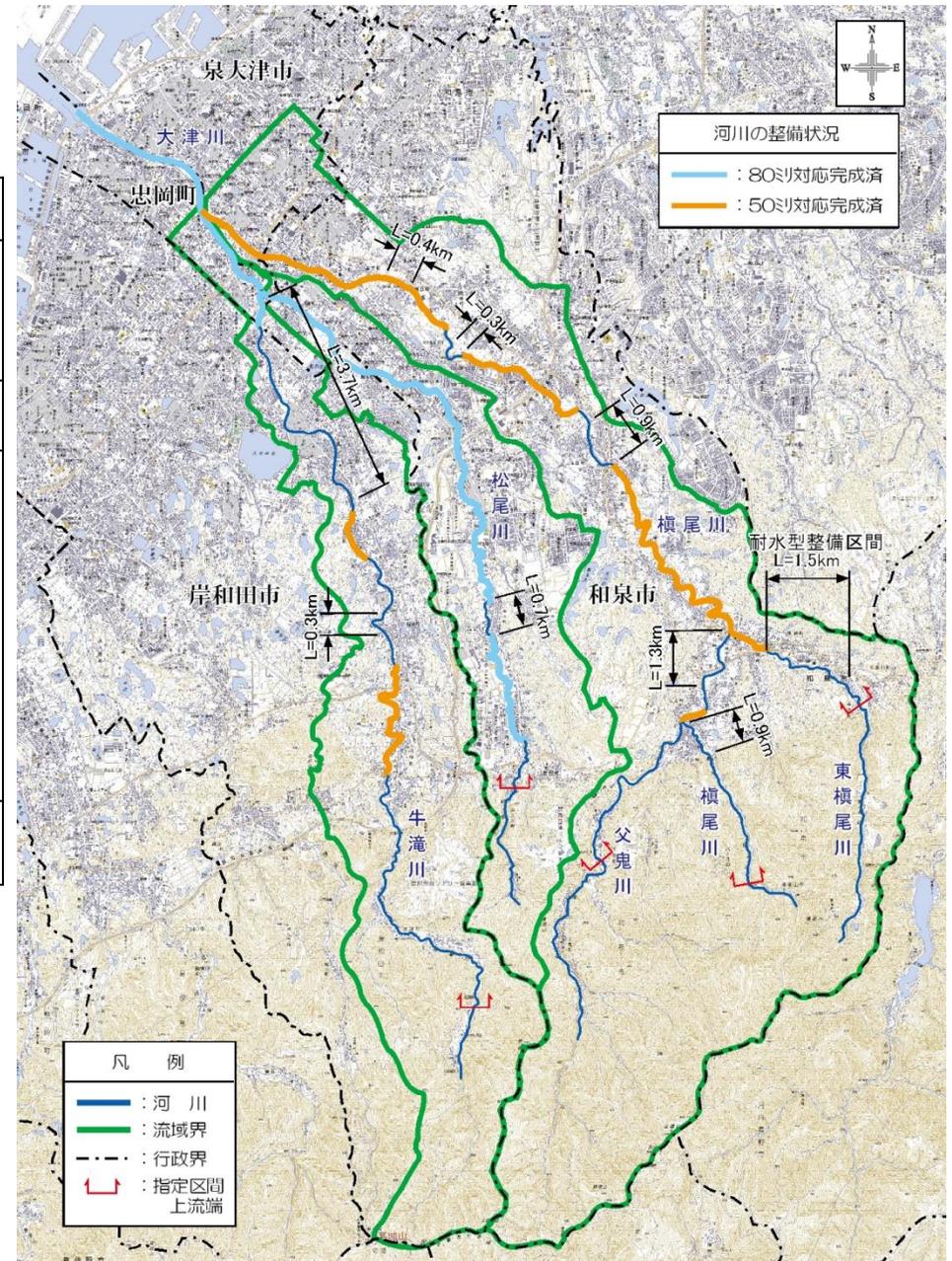
大津川水系河川整備計画における主な事業内容

整備対象区間（洪水対策）

河川名	整備対象区間	整備延長	事業着手の有無
牛滝川	JR阪和線～宮前橋上流 (1.8km～5.5km) 稲葉橋上流～下橋下流 (7.7km～8.0km)	約L=4.00km	事業中
松尾川	庄ノ川橋～冬堂橋上流 (7.1km～7.8km)	約L=0.70km	事業中
槇尾川	桑原井堰～郷荘橋上流 (3.4km～3.8km) 小井堰～山深橋 (4.9km～5.2km) 城前橋下流～川中橋 (7.6km～8.5km) 神田橋下流～宮之前橋下流 (12.4km～13.7km) 父鬼川合流点～そうず橋上流 (14.4km～15.3km)	約L=3.80km	事業中
東槇尾川	新小路橋～栗木橋下流 (0.7km～2.2km)	約L=1.50km (耐水型整備区間)	未着手 再評価対象外

計画対象期間

- 計画策定（H27年）から概ね30年



整備対象区間平面図（洪水対策）

1. 事業概要（牛滝川：事業中）

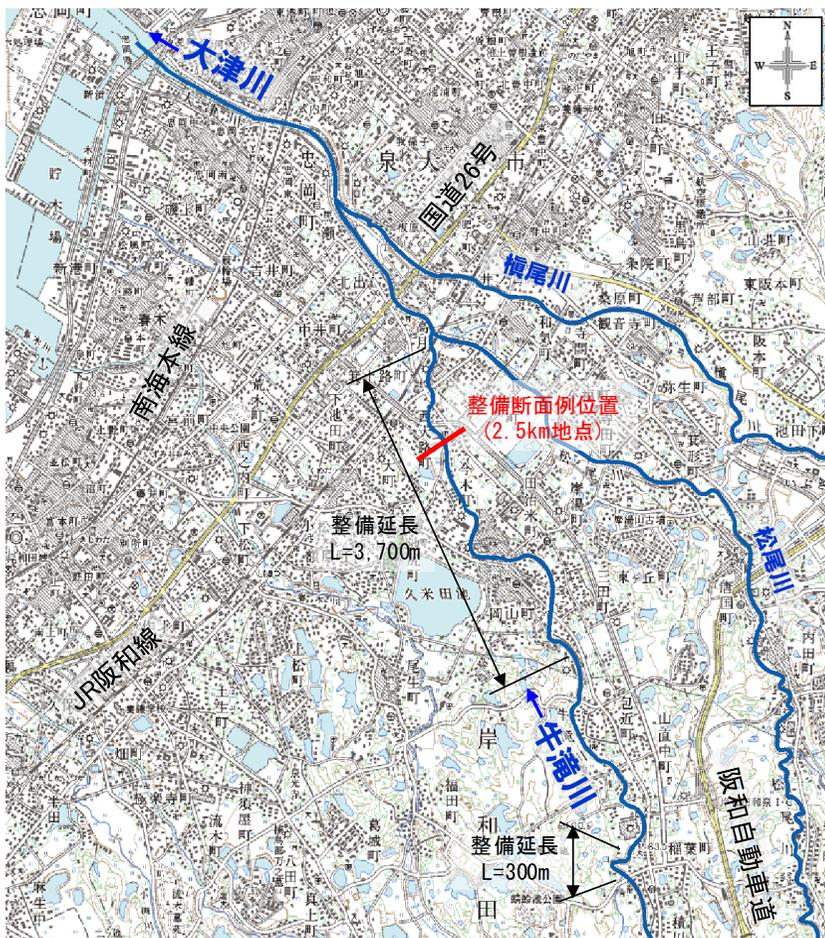
河川整備（洪水対策）の内容

①牛滝川：事業中

牛滝川では、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

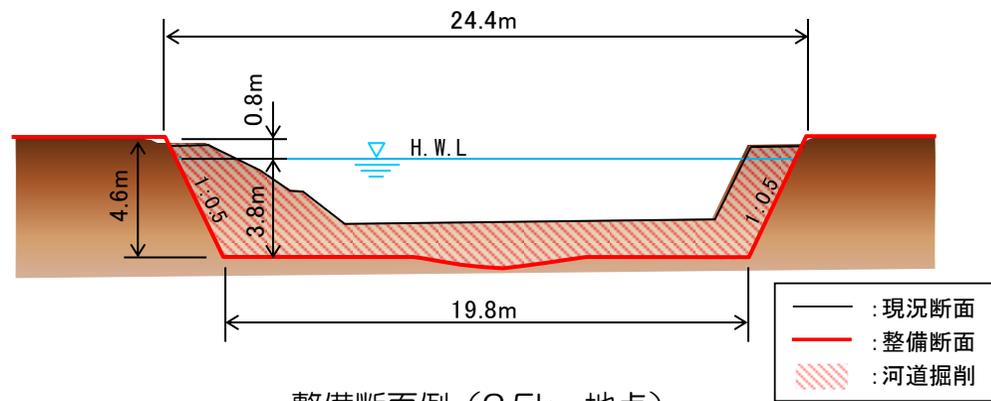
河道拡幅・河床掘削により流下能力の向上を図る。

整備にあたっては、河床の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、自然環境の保全を図る。



整備対象区間平面図

牛滝川（JR阪和線～宮前橋上流区間 他）
 整備目標：65ミリ程度、整備延長：約L=4.00km



整備断面例（2.5km地点）

※施設の設計に当っては、河川縦断勾配や曲線等、平面形状による洗掘等を考慮した構造を検討する。

河川整備（洪水対策）の内容

②松尾川：事業中

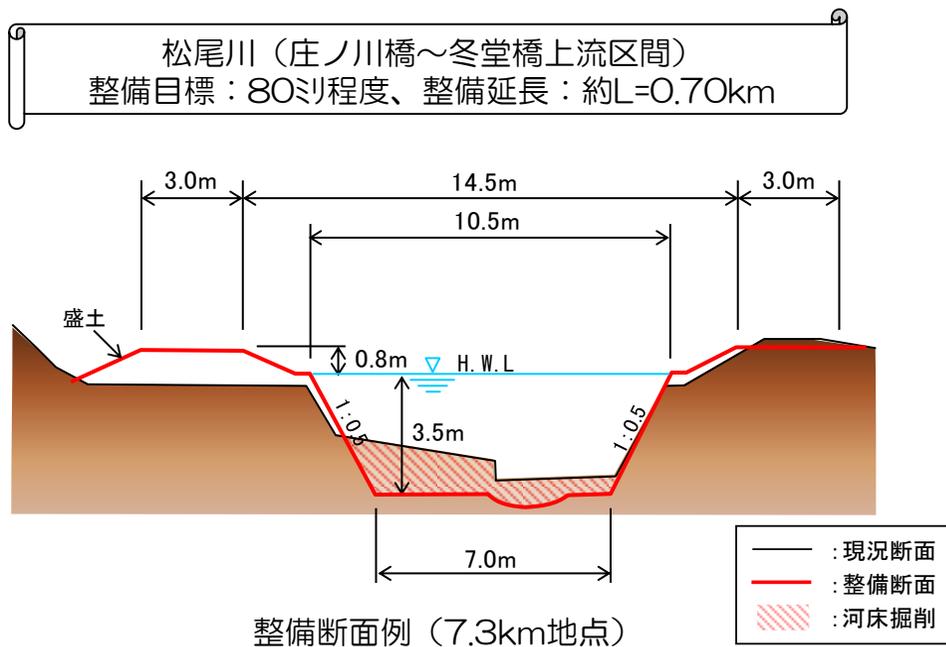
松尾川では、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

河道拡幅・河床掘削により流下能力の向上を図る。

整備にあたっては、河床の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、自然環境の保全を図る。



整備対象区間平面図



整備断面例（7.3km地点）

※施設の設計に当っては、河川縦断勾配や曲線等、平面形状による洗掘等を考慮した構造を検討する。

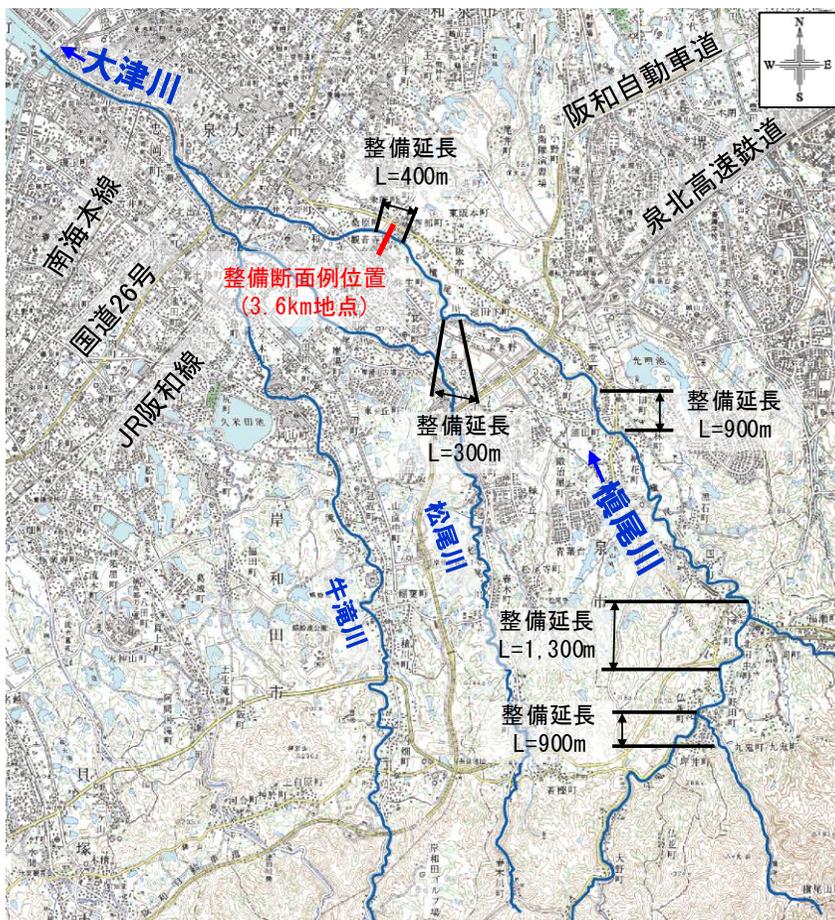
河川整備（洪水対策）の内容

③榎尾川：事業中

榎尾川では、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

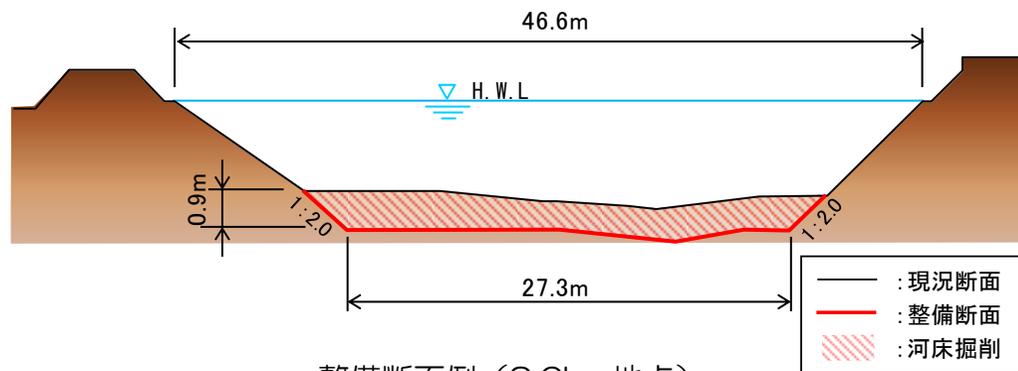
河道拡幅・河床掘削により流下能力の向上を図る。

整備にあたっては、河床の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、自然環境の保全を図る。



整備対象区間平面図

榎尾川（桑原井堰～郷荘橋上流区間 他）
 整備目標：65ミリ程度、整備延長：約L=3.80km



整備断面例（3.6km地点）

※施設的设计に当っては、河川縦断勾配や曲線等、平面形状による洗掘等を考慮した構造を検討する。

事業費の変更

		区間	延長	内容	前回評価時 (H25年)	今回 (H30年)	増減
大津川 水系	牛滝川	JR阪和線～宮前橋上流 (1.8km～5.5km) 稲葉橋上流～下橋下流 (7.7km～8.0km)	約L=4.00km	時間雨量65ミリ程度 の降雨による洪水を 対象に整備する	約86.0億円	約86.0億円	0円
	松尾川	庄ノ川橋～冬堂橋上流 (7.1km～7.8km)	約L=0.70km	時間雨量80ミリ程度 の降雨による洪水を 対象に整備する	約87.0億円 <small>※H7からの事業費</small>	約87.0億円 <small>※H7からの事業費</small>	0円
	槇尾川	桑原井堰～郷荘橋上流 (3.4km～3.8km) 小井堰～山深橋 (4.9km～5.2km) 城前橋下流～川中橋 (7.6km～8.5km) 神田橋下流～宮之前橋下流 (12.4km～13.7km) 父鬼川合流点～そうず橋上流 (14.4km～15.3km)	約L=3.80km	時間雨量65ミリ程度 の降雨による洪水を 対象に整備する	約44.2億円	約59.2億円	約15.0億円 増加

事業費の変更理由

(百万円)

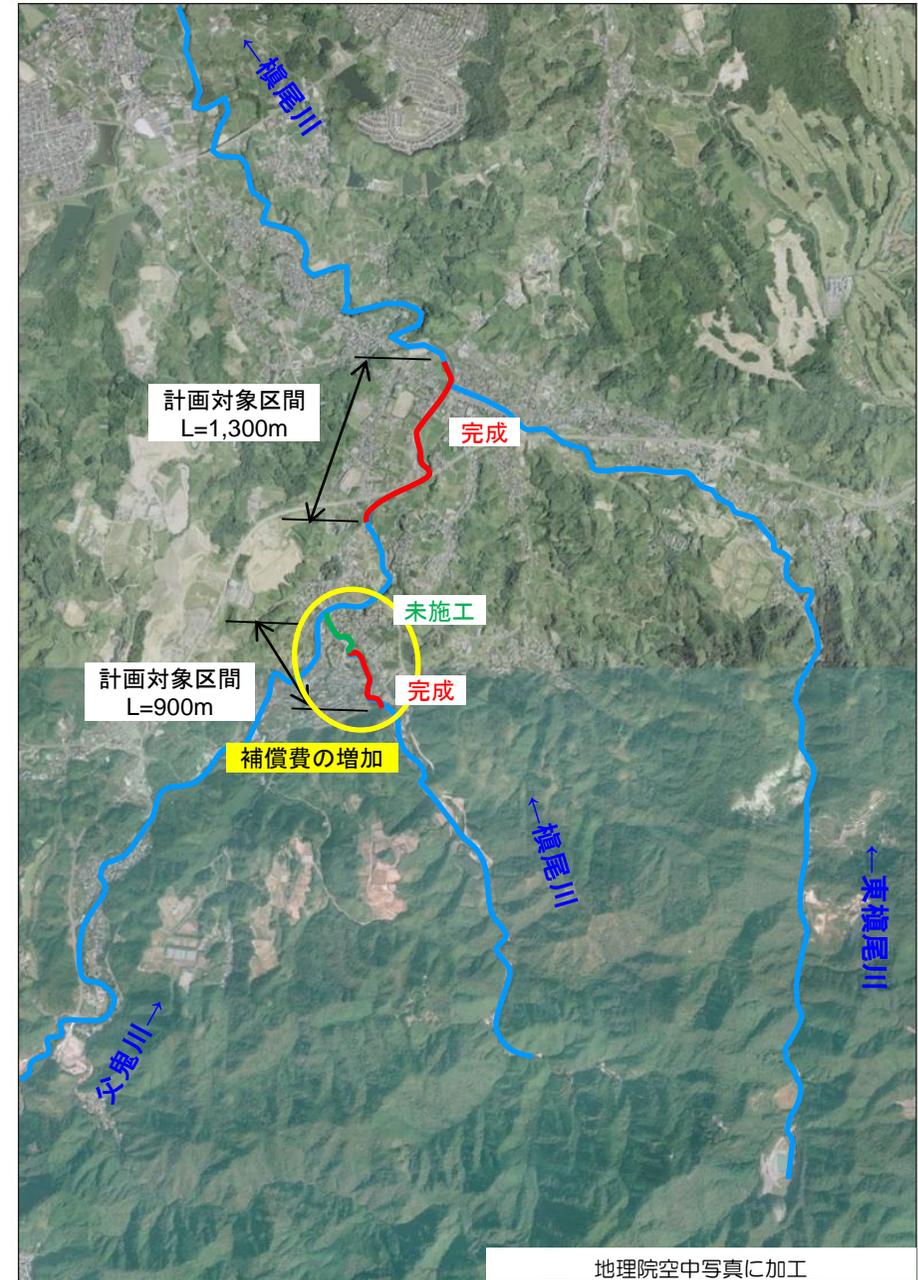
		前回評価時 (H25)	今回 (H30)	増減
全体事業費		4,420	5,920	1,500
工事費 の内訳	用地費	2,030	3,050	1,020
	工事費	2,390	2,690	300
	調査費	0	180	180

【事業費変動要因の状況】

- 榎尾川における事業費の増加は、用地補償費のうち概算事業費では想定できない、詳細調査を必要とする工場の機械設備等の補償費が増額。

【社会情勢の変化による事業費の増加】

- 消費税(H26以降)5%→8%
- 労務単価の増加等



○社会情勢について

	平成22年	平成27年	備考
人口	479,919人	474,167人	国勢調査(H22,H27)よりH22比 ▲1.2%
世帯数	181,401世帯	183,813世帯	国勢調査(H22,H27)よりH22比 +1.3%
事業所数	17,828所	17,237所	大阪府統計年鑑(H22,H27)よりH22比 ▲3.3%
就業者数	159,338人	151,247人	大阪府統計年鑑(H22,H27)よりH22比 ▲5.1%

○洪水発生時の影響

河川名	【再々評価時点 H25】	【再々評価時点 H30】
牛滝川	浸水想定面積:約237ha 浸水家屋:約4,922戸	浸水想定面積:約196ha 浸水家屋:約4,162戸
松尾川	浸水想定面積:約141ha 浸水家屋:約1,906戸	浸水想定面積:約0.2ha 浸水家屋:約1戸
槇尾川	浸水想定面積:約71ha 浸水家屋:約332戸	浸水想定面積:約63ha 浸水家屋:約283戸

※河川整備基本方針で定められた100年に1回の降雨規模の浸水面積・浸水家屋(世帯)

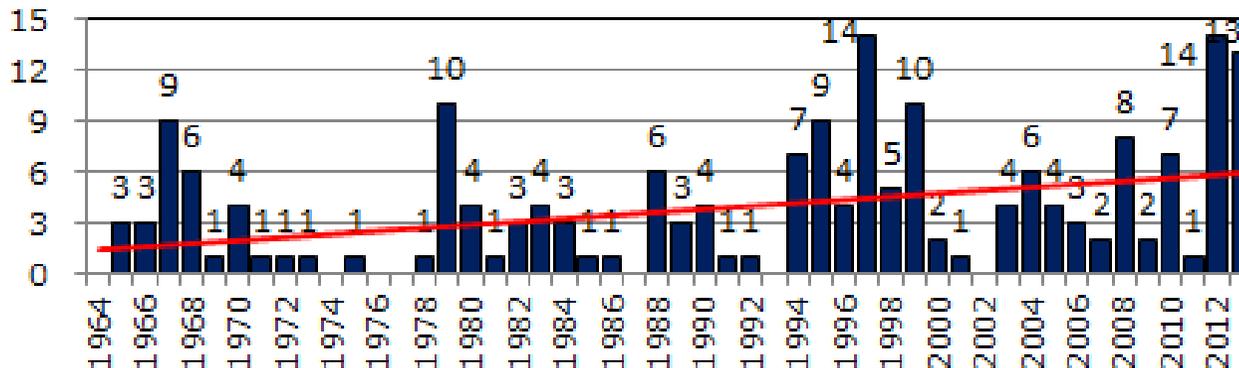
2. 事業の必要性等に関する視点

被害実績

- 近年、50mm/hr以上の降雨発生回数は増加傾向となっており、平成29年にも大阪府では家屋浸水が発生している。
- そのため、地元市からも河川改修事業の早期完成が望まれている。

年月	気象要因	被害状況
昭和27年7月	豪雨	被害は、堺市、岸和田市を中心に発生し、大阪市、堺市など7市2郡に災害救助法が適用された。大阪府下で死者41名、浸水192,238戸に及んだ。 <small>(大津川水系河川整備基本方針参考資料より)</small>
昭和57年8月	台風10号 豪雨	大津川水系の関係市町では、和泉市で負傷者2名、家屋全壊2戸、半壊2戸、一部損壊11戸床上浸水168戸、床下浸水5,526戸に及んだ。 <small>(大津川水系河川整備基本方針参考資料より)</small>
平成7年7月	豪雨	大津川水系の関係市町では、床上浸水11戸、床下浸水60戸に及んだ。 <small>(大津川水系河川整備基本方針参考資料より)</small>
平成23年9月	台風12号 豪雨	大津川水系の関係市町村では、浸水被害はなかった。松尾川で河川被害(護岸欠損)が発生(計1件)。 <small>(大津川水系河川整備基本方針参考資料より)</small>
平成29年10月	台風21号 豪雨	大津川水系の関係市町村では、浸水被害はなかった。牛滝川や槇尾川で河川被害(護岸欠損)が発生。

近年の降雨の傾向



60分間雨量50ミリ以上の降雨の発生回数は増加傾向(大阪府30地点)

2. 事業の必要性等に関する視点

事業を巡る社会情勢の変化

- 平成29年10月台風21号・豪雨による被害



槇尾川新槇尾大橋下流左岸(和泉市仏並町)



牛滝川上長滝橋上流右岸
(岸和田市山直中町)

2. 事業の必要性等に関する視点

地域や関係機関との連携

- 毎年1回、地域住民が中心となった「アドプト・リバー・プログラム」を実施。
- 槇尾川上流部で、様々な主体(地域住民、大学、企業、和泉市等)との連携・協力により、森林整備や間伐材を利用した木工作業を実施(H26.7月)。

No.	名称	河川名	実施場所	団体名	協定締結日
1	アドブル・リバー・大津川	二級河川 大津川	泉大津市	大津川に花と緑の会	H14. 4.23
2	アドブル・リバー・南横山	二級河川 父鬼川	和泉市	南横山校区町会連合会	H14. 5.23
3	アドブル・リバー・かねちか	二級河川 牛滝川	岸和田市	牛滝化を守る包近の会	H14. 7.28
4	アドブル・リバー・内田	二級河川 松尾川	和泉市	内田町町内会	H14. 7.29
5	アドブル・リバー・芦部	二級河川 槇尾川	和泉市	芦部町有志の会 和泉・夢と歴史をつくる会	H15. 7.30
6	アドブル・リバー・井ノ口	二級河川 槇尾川	和泉市	和泉市井ノ口町内会	H16. 3.25
7	アドブル・リバー・和気町	二級河川 槇尾川	和泉市	ガールスカウト大阪府第28団	H16. 3.29
8	アドブル・リバー・板原	二級河川 槇尾川	泉大津市	ホテルカミーノ 泉大津店	H16. 7.20
9	アドブル・リバー・大津川	二級河川 大津川	泉大津市	大津川クリーンアッププロジェクト	H17.10.21
10	アドブル・リバー・河原町	二級河川 大津川	泉大津市	住友ゴム工業株式会社 泉大津工場	H17.10.21
11	アドブル・リバー・大津川	二級河川 大津川	泉大津市	川の会	H18. 6.30
12	アドブル・リバー・板原	二級河川 槇尾川	泉大津市	株式会社 ボディーオートマエカフ	H18. 7.24
13	アドブル・リバー・板原	二級河川 槇尾川	泉大津市	深喜毛織 株式会社	H18. 7.24
14	アドブル・リバー・板原	二級河川 槇尾川	泉大津市	株式会社 フジワラ	H18. 9.13
15	アドブル・リバー・いぶき野	二級河川 槇尾川	和泉市	和泉市いぶき野小学校	H19. 7.18
16	アドブル・リバー・板原	二級河川 槇尾川	泉大津市	ホテルサウザリートの青い風	H20.10.22
17	アドブル・リバー・清水町	二級河川 大津川	泉大津市	株式会社 ミューチュアル	H20.12.17
18	アドブル・リバー・かわなか	二級河川 槇尾川	和泉市	川中町会・なごみ会	H22. 3.31
19	アドブル・リバー・今福A団地	二級河川 松尾川	和泉市	いずみ今福A団地管理組合及び福寿会	H22.11.30
20	アドブル・リバー・河原住宅	二級河川 大津川	泉大津市	河原住宅	H22. 9.30
21	アドブル・リバー・小田町	二級河川 松尾川	和泉市	りんらんグループ	H22.11.30
22	アドブル・リバー・和気町3丁目	二級河川 槇尾川	和泉市	123いずみ	H24. 3.30
23	アドブル・リバー・和気町	二級河川 槇尾川	和泉市	社会福祉法人 芳春会 特別養護老人ホーム ピオラ和泉	H24. 3.30
24	アドブル・リバー・府中町4丁目	二級河川 槇尾川	和泉市	府中団地町内会	H24. 5.11
25	アドブル・リバー・横山	二級河川 槇尾川 二級河川 東槇尾川 二級河川 父鬼川	和泉市	横山校区町会連合会	H24. 7.26
26	アドブル・リバー・南横山・横山	二級河川 槇尾川 二級河川 東槇尾川 二級河川 父鬼川	和泉市	北野木材	H24. 7.26
27	アドブル・リバー・芦部町	二級河川 槇尾川	和泉市	クリーンリバー槇尾川	H25. 7.31
28	アドブル・リバー・槇尾山	二級河川 槇尾川	和泉市	一般財団法人大阪市青少年活動協会	H25.10.24
29	アドブル・リバー・槇尾山	二級河川 槇尾川	和泉市	大阪府立大学工業高等専門学校	H25.10.24
30	アドブル・リバー・いぶき野	二級河川 槇尾川	和泉市	カワキレストーンズ	H26. 9.18
31	アドブル・リバー・今木町	二級河川 牛滝川	岸和田市	今木町牛滝川	H27. 4.25
32	アドブル・リバー・ホテルとオオムラサキの里久井町	二級河川 松尾川	和泉市	特定非営利活動法人いずみの国の自然館クラブ	H28. 3.23



アドプト・リバー・プログラム
(河川敷等の清掃活動)



アドプト・リバー・プログラム
(ひつじに会える河川敷)



地元住民・大学生等との連携による間伐作業(槇尾川上流部)

※アドプト・リバー・プログラム: 地元自治会や企業、市民グループ、学校などに河川の一定区間の清掃や美化活動などを継続的に実施していただき、河川愛護に対する啓発や、河川美化による地域環境の改善、不法破棄の防止などに役立てることをねらいとした取り組み。

2. 事業の必要性等に関する視点

B/C

- 「治水経済調査マニュアル(案)」(国土交通省河川局、平成17年4月)に基づいて、被害軽減効果を河川改修事業の効果(便益)として算出を行った。
- 被害軽減効果の算定にあたっては、費用や完成予定年の更新、評価基準年の更新、デフレ一タの更新を行い、B/Cを算定した。
- 被害軽減効果に治水施設の残存価値を加算し、便益とした。
- 槇尾川については、事業費の増加を考慮して費用対効果を算出したところ、前回評価時より下がったものの、算定の結果、今回評価におけるB/Cは槇尾川1.2となった。
- また、牛滝川、松尾川については、今回評価におけるB/Cは牛滝川で2.6、松尾川で1.3となった。

2. 事業の必要性等に関する視点

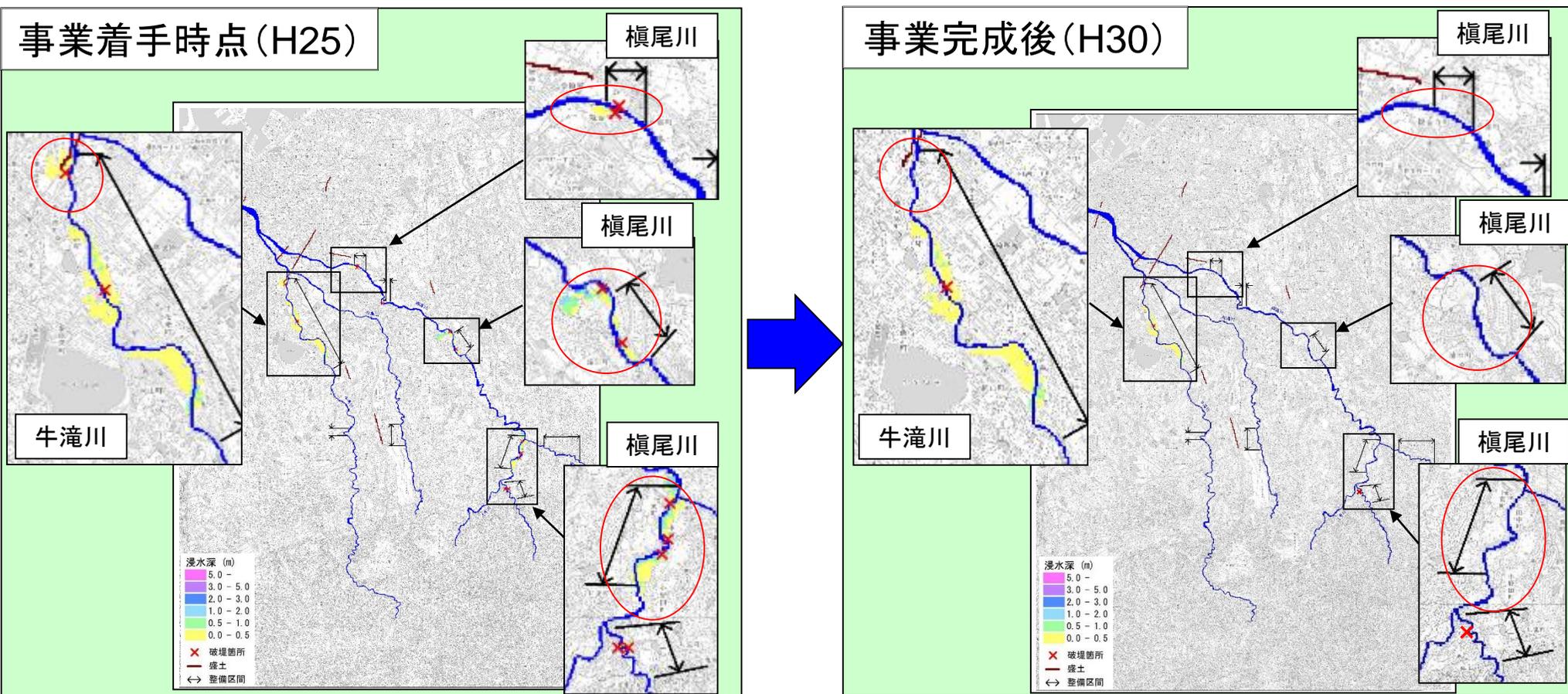
B/C

河川名	項目	前回評価時 (H25)	今回評価 (H30)
牛滝川	B/C	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C=2.6 B= 133.2億円 C= 51.0億円 建設費 45.7億円 維持管理費 5.3億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C=2.6 B= 161.6億円 C= 62.1億円 建設費 55.7億円 維持管理費 6.4億円
松尾川	B/C	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C=1.3 B= 167.4億円 C= 132.4億円 建設費 117.8億円 維持管理費 14.6億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C=1.3 B= 203.9億円 C= 161.7億円 建設費 143.8億円 維持管理費 17.8億円
槇尾川	B/C	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C=1.6 B= 67.8億円 C= 42.7億円 建設費 38.4億円 維持管理費 4.2億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・B/C=1.2 B= 82.8億円 C= 69.0億円 建設費 62.1億円 維持管理費 6.9億円

2. 事業の必要性等に関する視点

事業効果の定性的分析[安全・安心]

- 牛滝川、槇尾川は、時間雨量50ミリ程度の降雨による床下浸水を防ぐとともに事業効率を踏まえ、時間雨量65ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを目標としている。
- 大津川水系では、牛滝川、松尾川、槇尾川で河道改修を進め治水安全度の向上はみられるが、未整備区間で洪水リスクが残っており、引き続き事業を実施する必要がある。

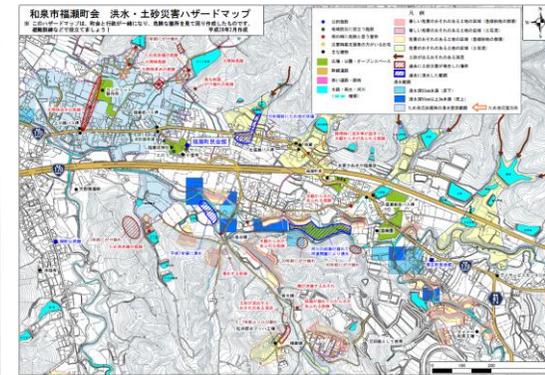


対象降雨: 時間雨量50ミリ程度 (1/10)

事業効果の定性的分析【活力】

- 土砂災害防止法に基づく基礎調査に合わせ、災害のリスクを理解を深めるため、地域の方々と手作りハザードマップ作成に向けたワークショップを開催。(北田中町、福瀬町、善正町、九鬼町)

町名	開催日	内容
福瀬町	平成27年9月5日	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害とその前兆現象について 大阪府の土砂災害対策について 地区の防災体制とハザードマップ
	平成27年10月25日	<ul style="list-style-type: none"> まち歩き 危険箇所等のマップへの記入
	平成28年2月6日	<ul style="list-style-type: none"> 地域の避難体制づくり
善正町	平成27年9月12日	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害とその前兆現象について 大阪府の土砂災害対策について 地区の防災体制とハザードマップ
	平成27年10月18日	<ul style="list-style-type: none"> まち歩き 危険箇所等のマップへの記入
	平成27年11月28日	<ul style="list-style-type: none"> 地域の避難体制づくり
九鬼町	平成27年10月17日	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害とその前兆現象について 大阪府の土砂災害対策について 地区の防災体制とハザードマップ
	平成27年11月8日	<ul style="list-style-type: none"> まち歩き 危険箇所等のマップへの記入
	平成27年12月20日	<ul style="list-style-type: none"> 地域の避難体制づくり
北田中町	平成25年8月25日	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害とその前兆現象について 大阪府の土砂災害対策について 北田中町周辺の洪水リスクについて 地区の防災体制とハザードマップの進め方
	平成25年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> 北田中町のまちのつくり 危険箇所等のマップへの記入
	平成25年10月27日	<ul style="list-style-type: none"> まち歩き
	平成25年11月30日	<ul style="list-style-type: none"> 地域の避難場所及び避難ルートの確認 地域の情報伝達方法の確認 自主避難の判断の確認



地域版ハザードマップ (北田中町会・福瀬町会)



第2回ワークショップの様子 (北田中町)



第3回ワークショップの様子 (福瀬町)

事業効果の定性的分析【快適性】

- 中下流部の都市部を流れる河川では、地域に憩いと安らぎを与える貴重な空間であることから、水辺の学校などを催し、川の生き物や自然とのふれあいの場として提供に寄与している。
- 親水性や自然環境に配慮した改修を行うことにより、地域に憩いと安らぎを与える貴重な空間であることから、地域住民や関係機関と協働し、水辺空間を維持するなど、引き続き府民に親しまれる川づくりに努める。



水辺の学校の状況（水質調査）



水辺の学校の状況（生物採取）



松尾川和泉市内田町（アドプトリバー・羊）



大津川・牛滝川河川敷公園（グラウンド等）

まとめ

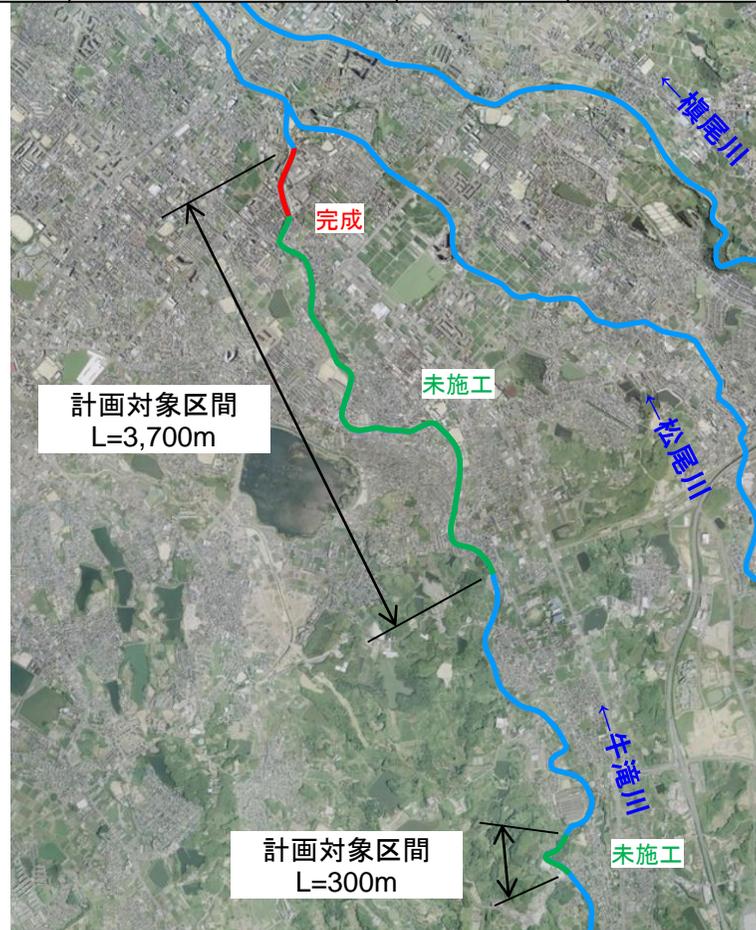
- 現時点で再度、牛滝川、槇尾川、松尾川の費用対効果を算出したところ、B/Cは、牛滝川で2.6、松尾川で1.3、槇尾川で1.2であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。
- また、地元市からも河川改修事業の進捗を望まれていること、事業を巡る社会情勢等に大きな変化がないこと等より、事業の必要性に変わりはない。
- 大津川水系では、牛滝川、松尾川、槇尾川で河道改修を進め治水安全度の向上はみられるが、未整備区間で洪水リスクが残っており、引き続き事業を実施する必要がある。

3. 事業進捗の見込みの視点（牛滝川）

H25年度～H29年度末までの実施状況

➤ 整備延長 約4.0kmのうち、約0.5km完成。

河川名	整備対象区間	整備延長	進捗状況
牛滝川	JR阪和線～宮前橋上流 (1.8km～5.5km)	約3.7km	約0.5km 完成
	稲葉橋上流～下橋下流 (7.7km～8.0km)	約0.3km	事業未着手



地理院空中写真に加工

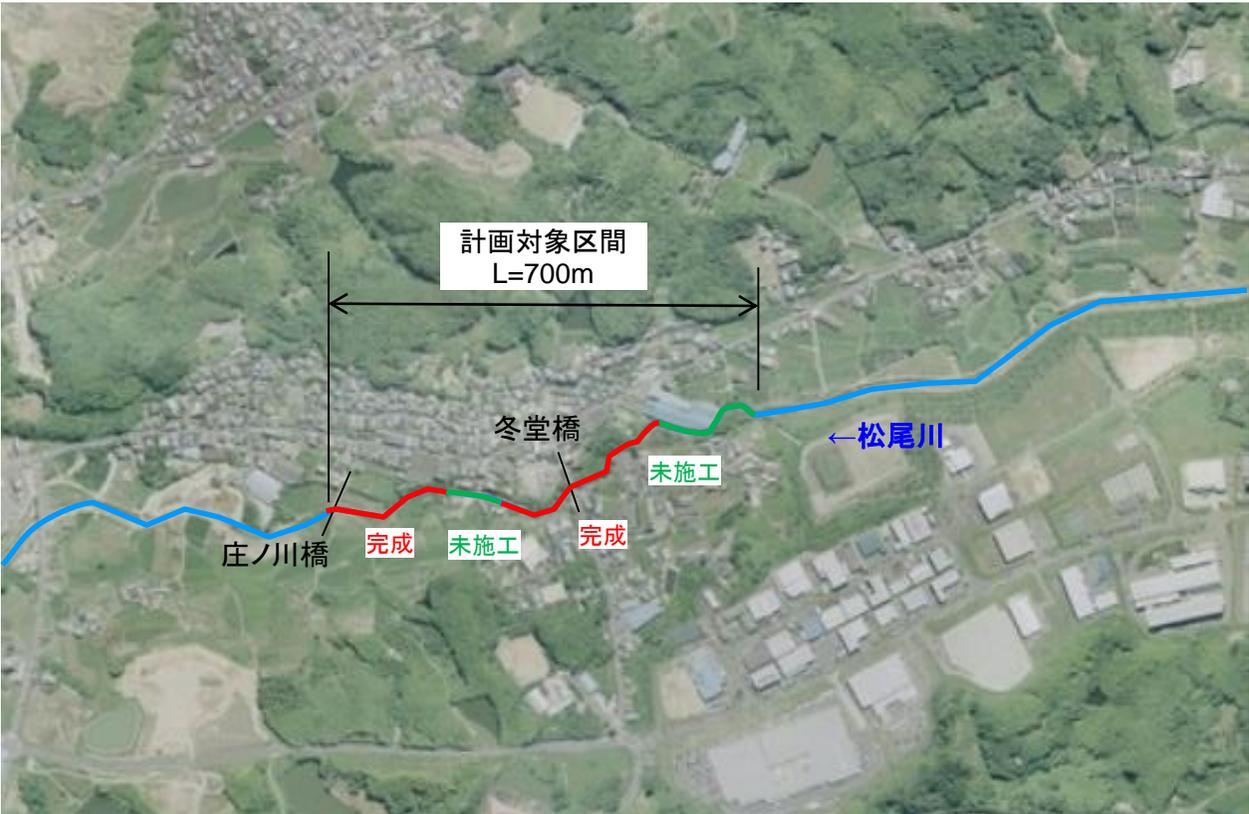


3. 事業進捗の見込みの視点（松尾川）

H25年度～H29年度末までの実施状況

➤ 整備延長 約0.7kmのうち、約0.45km完成。

河川名	整備対象区間	整備延長	進捗状況
松尾川	庄ノ川橋～冬堂橋上流 (7.1km～7.8km)	約0.7km	約0.45km 完成



地理院空中写真に加工



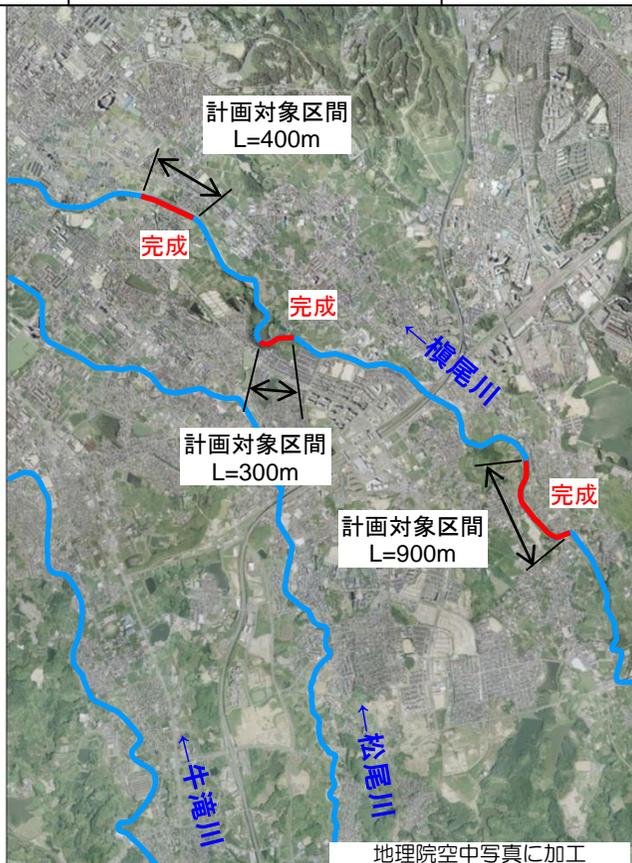
3. 事業進捗の見込みの視点（槇尾川）

H25年度～H29年度末までの実施状況

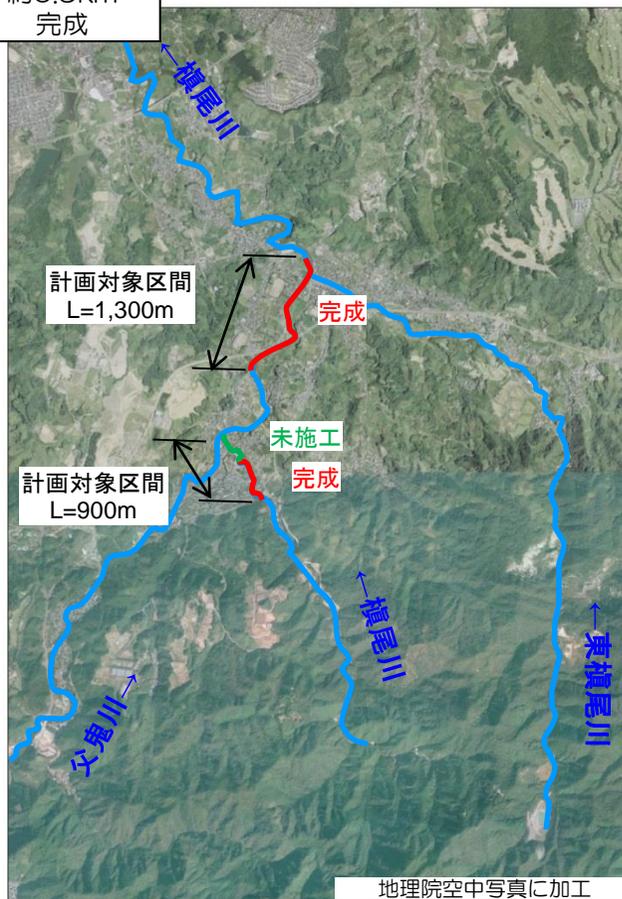
➤ 整備延長 約3.8kmのうち、約3.4km完成。

河川名	整備対象区間	整備延長	進捗状況
槇尾川	桑原井堰～郷荘橋上流 (3.4km～3.8km)	約0.4km	約0.4km 完成
	小井堰～山深橋 (4.9km～5.2km)	約0.3km	約0.3km 完成
	城前橋下流～川中橋 (7.6km～8.5km)	約0.9km	約0.9km 完成

河川名	整備対象区間	整備延長	進捗状況
槇尾川	神田橋下流～宮之前橋下流 (12.4km～13.7km)	約1.3km	約1.3km 完成
	父鬼川合流点～そうず橋上流 (14.4km～15.3km)	約0.9km	約0.5km 完成



地理院空中写真に加工



地理院空中写真に加工



3. 事業進捗の見込みの視点

- 大津川水系河川整備計画（変更）（H27.1策定）及び、大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3改訂）に位置付けて、事業を進めており、H29年度末で、事業の進捗率は、牛滝川で7%、松尾川で94%、槇尾川で60%である。
- これまでも河道改修を推進し、治水安全度の向上に努めるなど、着実に成果を上げており、引き続き事業を継続することが妥当である。

河川	項目	前回評価時	今回評価
牛滝川	①事業採択年度	①H25年	①H25年
	②事業着工年度	②H25年	②H25年
	③完成予定年度	③2045年	③2045年
	進捗率(全体)※	0%	7%
	進捗率(用地費)※	0%	9%
	進捗率(工事費)※	0%	5%
松尾川	①事業採択年度	①H25年	①H25年
	②事業着工年度	②H25年	②H25年
	③完成予定年度	③2023年	③2023年
	進捗率(全体)※	84%	94%
	進捗率(用地費)※	84%	97%
	進捗率(工事費)※	89%	91%

河川	項目	前回評価時	今回評価
槇尾川	①事業採択年度	①H25年	①H25年
	②事業着工年度	②H25年	②H25年
	③完成予定年度	③H2020年	③2023年
	進捗率(全体)※	0%	60%
	進捗率(用地費)※	0%	55%
	進捗率(工事費)※	0%	64%

※事業費ベースでの進捗率

4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

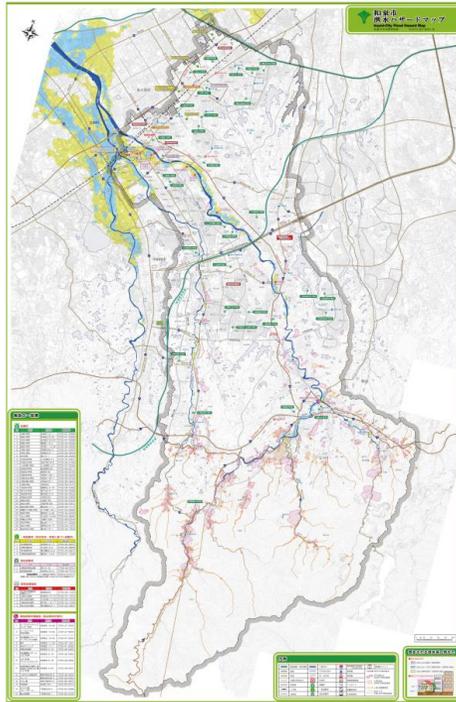
- 松尾川は、事業が完了に近づいており、代替案立案の検討の余地はない。残事業におけるコスト縮減に引き続き努める。
- 河川整備計画に基づく整備を予定しているが、更なるコスト縮減やより効率的な対策等について引き続き検討を行う。

5. 特記事項

河川防災情報の提供

1) 各市町による洪水ハザードマップの作成

- 和泉市による「洪水・土砂災害ハザードマップ」を作成し、HPで公表。(H25年度末)
- 泉大津市による「泉大津市総合防災マップ」を作成し、HPで公表。(H25年度末)
- 岸和田市による「洪水・土砂災害ハザードマップ」を作成し、HPで公表。(H26年度末)
- 忠岡町による「洪水ハザードマップ」を作成し、HPで公表。(H26年度)



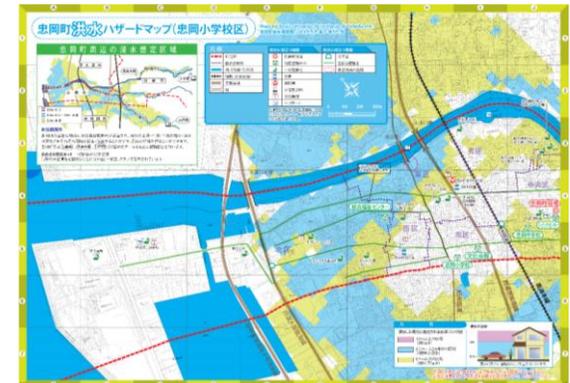
和泉市「洪水ハザードマップ」



泉大津市「泉大津市総合防災マップ」



岸和田市「洪水・土砂災害ハザードマップ」



忠岡町「洪水ハザードマップ」

5. 特記事項

2) 洪水はん濫・浸水の危険性の周知

- 現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、大津川水系では洪水リスク表示図を開示。
- この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ程度(約1/10)、時間雨量65ミリ程度(約1/30)、時間雨量80ミリ程度(約1/100)、時間雨量90ミリ程度(約1/200)降雨時の4パターンのはん濫解析結果を危険度(3段階)、最大浸水深(7段階)の2パターンで表示。



大阪府 洪水リスク表示図



各土木事務所での洪水リスク表示図の開示状況

3) 大阪府などによる情報提供

▶ 大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう河川カメラやリアルタイム雨量・水位情報を提供。



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

おおさか防災ネット

<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>

防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。
touroku@osaka-bousai.net



川の防災情報

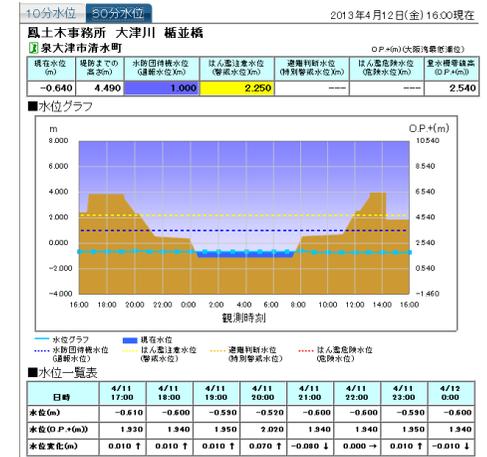
雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。
<http://i.river.go.jp/>
 直接アクセスしてください。



泉州・大津川 橋並橋



河川カメラの映像



河川のリアルタイム雨量・水位情報の提供

大阪府都市整備部河川室 河川防災情報
<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>

6. 対応方針（原案）

対応方針（原案）

事業の必要性等

- 現時点で再度、牛滝川、槇尾川、松尾川の費用対効果を算出したところ、B/Cは1以上であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。また、地元市からも河川改修事業の進捗を望まれていること、事業を巡る社会情勢等に大きな変化がないこと等より、事業の必要性に変わりはない。
- 大津川水系では、牛滝川、松尾川、槇尾川で河道改修を進め治水安全度の向上はみられるが、未整備区間で洪水リスクが残っており、引き続き事業を実施する必要がある。

事業の進捗の見込み

- 大津川水系河川整備計画（変更）（H27.1策定）及び、大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3改訂）に位置付けて、事業を進めており、H29年度末で、事業の進捗率は、牛滝川で7%、松尾川で94%、槇尾川で60%である。これまでも河道改修を推進し、治水安全度の向上に努めるなど、着実に成果を上げており、引き続き事業を継続することが妥当である。

コスト縮減や代替案等の可能性

- 河川整備計画に基づく整備を予定しているが、更なるコスト縮減やより効率的な対策等について引き続き検討を行う。
- 松尾川は、事業が完了に近づいており、代替案立案の検討の余地はない。残事業におけるコスト縮減に引き続き努める。

事業の継続